

# 【令和3年度】指定管理者制度導入施設の管理運営状況総合評価シート

施設名	吹田市立高齢者生きがい活動センター	所管部室課名	高齢福祉室
所在地	吹田市津雲台1-2-1 千里ニュータウンプラザ5階	設置年月日	平成24年7月1日

## 1 施設の概要

(1)設置目的	高齢者が教養を深め、又は相互に交流することにより、生きがいづくりをする拠点。
(2)規模、開館日等	開館日 月～土曜日午前9時～午後5時30分 休館日 日・祝休日及び年末年始 施設概要 交流サロン(個人利用スペース) 多目的室1・2・3・4(団体専用貸し室) 生きがい教室1・2(団体専用貸し室及び自主事業での使用スペース)

## 2 指定管理者の概要

(1)指定管理者	一般社団法人吹田市高齢クラブ連合会					
(2)指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日					
(3)選定方法	公募					
(4)指定管理者が行う業務内容	1 高齢者の生きがいづくり、健康づくり世代間交流等に関する講座、研修等の実施。 2 高齢者・高齢者団体の交流及び活動に対する支援に関すること。 3 高齢者に係る相談及び情報提供に関すること。 4 使用者及び使用団体登録申請にかかる業務。 5 施設の使用申請・許可等にかかる業務。					
(5)指定管理者の収支			令和2年度		令和3年度	
			計画	実施結果	計画	実施結果
	収入	委託料 (円)	12,868,000	11,705,837	12,003,500	11,940,210
		自主事業 (円)	667,500	231,500	750,000	118,000
		その他 (円)	0	32	0	30
		合計 (円)	13,535,500	11,937,369	12,753,500	12,058,240
	支出	管理経費 (円)	12,868,000	11,705,837	12,003,500	11,940,210
		自主事業 (円)	648,000	208,014	733,000	111,000
		その他 (円)	0	0	0	0
		合計 (円)	13,516,000	11,913,851	12,736,500	12,051,210
収支差額 (円)		19,500	23,518	17,000	7,030	

## 3 施設の利用状況

利用状況を示す指標		令和2年度		令和3年度	
		計画	実施結果	計画	実施結果
1	個人利用者数 (人)	27,074	12,173	30,140	19,378
2	団体利用者数 (人)	27,009	6,299	23,678	8,177
3	開所日数 (日)	293	155	293	192
4	1日平均利用者数 (人)	185	119	184	144
5	貸室利用件数 (件)	1,860	994	2,304	1,702
6	主催講座(生きがいづくり) (回)	99	34	105	77
7	主催講座(世代間交流) (回)	3	1	5	6
8	主催講座(教養の向上) (回)	23	16	22	32
9	主催講座(健康づくり) (回)	8	3	10	11
10	自主事業開催回数 (回)	88	29	108	75

#### 4 利用者ニーズの把握の状況

(1)把握方法	利用者アンケート、利用者との日頃の会話により把握。
(2)把握結果	アンケート結果から概ね満足との評価結果を得ている。
(3)結果を受けての対応状況	利用者の要望に対し、対応できることは迅速に実施している。また、検討した結果、実現が困難な要望に対しては、理解が得られるよう丁寧に説明している。

#### 5 管理運営状況に対する評価

項目	評価
(1)市民の平等な利用の確保	設置条例・施行規則等を遵守し、使用許可を行っている。盲導犬やヘルパーと一緒に施設を利用したいといった場合に市に相談のうえ対応しており、条例や要綱等に基づき、適切に判断しようとする姿勢、なるべく多くの市民に施設を利用してもらおうという姿勢が窺える。
(2)施設の効用の発揮	日頃の会話、利用者アンケートにてニーズを把握しており、講座内容等に反映している。特にデジタルデバイス(情報格差)を少しでも解消するべく、スマートフォンに関する講座に注力しており、応募即日で満員になる等、高齢者の関心の高い分野に焦点を当てた講座を展開できている。 また、利用者からは「施設に来ることで生活のリズムができて」「コロナ禍でのストレス発散になっている」「友達が増えた」「会員と話すことで元気がもらえたり、刺激を受けたりする」と声があった。施設を利用することで、利用者の生きがい、交友関係の構築等に繋がっている。
(3)管理を安定して行う人員、資産その他の経営規模及び能力	通常3名以上、休館時は2名以上が勤務しており、利用者ひとりひとりに寄り添った施設運営が行えている。 当該法人は主な収入が会費、市の補助金であるため、多額の収入は見込めないが、例年決算額は黒字と安定している。
(4)施設の管理経費の縮減	裏紙の使用、両面印刷、ペーパーレスのためにPDF化する機器の導入、インターネットでの物品購入により、経費削減を実施している。
(5)その他	聴覚障がいのある利用者のために、コミュニケーションボードやスマホアプリを導入したり、認知症マナー等の研修を受講したりと、利用者にとって快適な施設環境となるよう、ソフト面でも尽力している。 また、講座の企画では、企画立案から承認までに複数人が携わることで、多角的な視点で講座の内容を練ることができ、結果的に、利用者満足度の高い、内容の濃い講座を実施できている。
(6)総合評価	協定書等をおおむね遵守し、施設の管理運営を行っていた。 職員と利用者との関わりを大切に、積極的に声を掛けたり、会話したりする場面が施設で多く見られた。利用者からも「職員の声掛けに好感が持てる」「対応が丁寧、親切」と満足する声をいただいた。 講座においては、利用者ニーズを反映した内容の濃いものを展開しており、情報発信においても、チラシだけでなく、LINEやInstagramでも行い、利用者の確保に努めていた。 コロナ禍でスピード感のある臨機応変な対応が必要とされる中、利用者への動向を第一に考えて迅速に対応しており、利用者ファーストを重んじる方針が職員全体に行き届いていた。